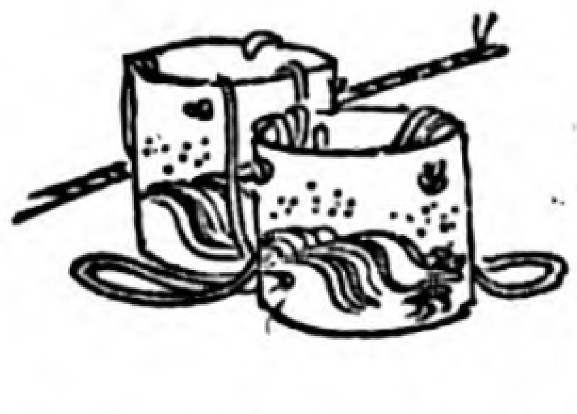
いらつめ第卅八號目次（明治二十三年一月十日）

●挿畫……猛虎山月の新年祝賀……狩野晨信
●小說……心づくし（第四回上）……毛布野女史
●家政……男女大人衣服裁縫法（第八）木下貞子
○日本風改良燒き鳥＝衞生三食見立て（第五日分）……岩間芳松
●文藝美術……文さ語調さの關係（其二）……美妙齋主人
○五社百詠……俊成卿
○新年……佐々木弘綱
○懸賞文藝得點和歌及び唱歌題……かるた遊び
●雜纂……國民之友の新年附錄＝最も長い言葉＝西洋狀袋の初まり＝國の花＝てにずん詩老の新作＝雨の豫察＝無音の物がたり
●寄書……我文學界のため惜む……おろか小僧
●答書……無限日曜表……大川晴雄
○無限七値表……伊藤せい子
●通信問答……英語獨習書＝父さ姉さ軌る時に處する妹の地位＝人の稱贊及び誹謗＝ホヤノ白色さ無色＝最上齒磨＝神經的病の藥＝食パン及び洋食について一切＝白色法＝鼻の形を直す法＝新聞
●餘興……解答及び新題

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵稅共金三錢、十二部金二十九錢郵稅共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵稅共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵稅共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵稅共金一圓二十四錢●別製一部金三錢五厘郵稅共金四錢、二十部金六十五錢郵稅共七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵稅共金一圓九十錢●並別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事●府內に限り無郵稅●毎月四回（八日十五日二十二日三十日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂渡郵便局さある處に（神田郵便局）と記し、受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵劵代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り增しなれば助け無い事●見本は五厘切手で並製三錢別製四錢領收の上差え上げます●廣告料一行金八錢、割引無し●第廿八號から本社から賣り出す證として雜誌の表紙に成美社の捺印を加へましたから是を目標として御求めを願ひます。捺印の無い雜誌に就いては本社で一切責に任じません。捺印の無いのを御求に爲っても代金御支拂に及びません。

從第三十八號至第四十七號十部版權所有



本號には美妙の子猛虎山月祝賀摺物●懸賞和歌唱歌かるたあそび無限日曜表及び無限七値表外に新年と題する佐々木弘綱大人の十六句今様●其他種々の面白く且有益の景物を添へてあります

明治二十三年一月九日印刷
明治二十三年一月十日出版
發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎
印刷人　同市同區同町同番地成美社方寄留　佐野忠吉
發行所　東京市神田區平永町九番地　成美社

いらつめ第三十八號

小説

第四回上

毛布野女史

米價は俄かに騰貴したれば、之れに伴ひ諸物價は騰貴り、金融は礑と行き詰りて、其日ぐらしの細民ハ働らきたくも仕事ハなく、商とても更らにあらねば、手を空しふして飢に泣き、路頭に迷ふも多かりける。然れば世間は物騒となりて、此處には强盗、彼處にハ追剝、陸續として絶ゆることなく、警察官は保護の爲め晝夜を分たず力を盡し、又慈善家は救助の爲めに勞苦を厭はず奔走すると共に疎ならずと雖も、容易に救ひ得べきにあらねば、此末如何になり行くべきかと人々安き心もなく、世間の驚愕大方ならず。依りて日毎の新聞には珍事の多き其中にて取り分け人を駭かせしは左に抄録せし一項なりき。

○紳商の就縛　方外の大安賣を以て其名を得たる似而非紳商神田區錦町の今田屋こと森尾彌七は安賣をするも道理、彼奴は資本いらずの仕入をして何喰はぬ顔をし居たりしが天網怎でか洩すべき、終に其筋の知る所となり、昨日警視第二局へ送られたる由。右に付家宅搜索されしに怪しかる證據物件も多く發見されたりといへば探訪の上は就れ記すこともあるなるべし。

斯く新聞に傳へしより其人物を知るも知らぬも十人寄れば十種の評判、人は見かけによらぬものぢや、表面に慈悲を飾りても、其爲す所は不審多く、常に怪しみ居たりしが、偖ては賊にてありしかといふもあれども中には復た盗み杜騙も人による、余人なりせば兎に角に今田屋さんに限りては何を不足に然ばかりの惡事を働らき給ふべき。是れには深き仔細ぞあらんと少しも疑を容れぬもありしが、宅間信種親子に於ては此の風説を聞きしより事の虚實は暫らく擱き、若し其品が不正なるものと嫌疑のかゝる時には或は卷添せられんかと竊かに危ぶみ居たる處へ果して輕罪裁判所より召喚狀は到來したり。信種常に人に對ひて五十年來世に立ちたれば多少の經驗を積みたりしかども、未だ幸ひに裁判を受けたることはこれなしと誇りしものを今となり老面下げて生恥を白洲の上にて曝らすことの殘念さよと打喞ちしが、今更云ふて詮なきことを遁るは愚痴の至りなり殊に我身に犯したる罪あらざれば何くへ往くとも何の恐るゝことやはある。物の美事に申し開らきて身の潔白を現はさんと思へば心に勇氣はつきて直ちに出廷したりしが、如何なる事の間違にや、又他に理由のあることとなるか、其儘拘留せられたり。お琴ハ斯くとも知らざれば父の戻りの遲きを訝り、迎の者を遣せしに早や信種ハ監獄へ廻はりしといふ後のことゆゑ使ハ周章てゝ歸り來り、お琴に之を物語る事の餘りに意外なれば、唯惘然と呆る

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

へのみにて、復た詮術もあらざりける。兼て神經質なる上に此程人の噂を聞き、其身の上を案じ過して腦病起せし折柄なれば、今此の事變に遇ふに及んで怎でか神經を傷めさるを得ん。

忽ち病勢差重りて枕も得あげずなり行きしかば、常には世詞に功者なる甲れ乙を始めとし、主人は拘留、娘は病氣、生中此處に居る時は迷惑其身に及ばんか知られずと皆々迯けて歸り去る中にお丁といふ者のみは一人り殘りて看病から店のことまで深切に世話をし呉るゝ實々しさは眞身も及ばぬ程なるゆゑお琴は豫て此の女をば快よからず思ひ居たれど力となるべき者なき處に痒き處へ手の届く其親切に羈されて又なき人と倚頼にすれば今ハ心の秘事をさへ打明け相談するに至れり。

「本當にお丁さん、貴娘が斯う親切にして下さるんで妾は助かります。嚴父が歸りましたら屹度御禮を……したが何時歸りますものやら……」

「それは貴娘の御病氣なんですよ。おゝ左樣〱旦那樣が御歸りになりましたら歌舞伎座を驕つて頂きませう。は……」

「それや如何なことでも致しますが、夫れに付ても早く……

……」

家政

裁縫獨學び(高等第六)　木下貞子

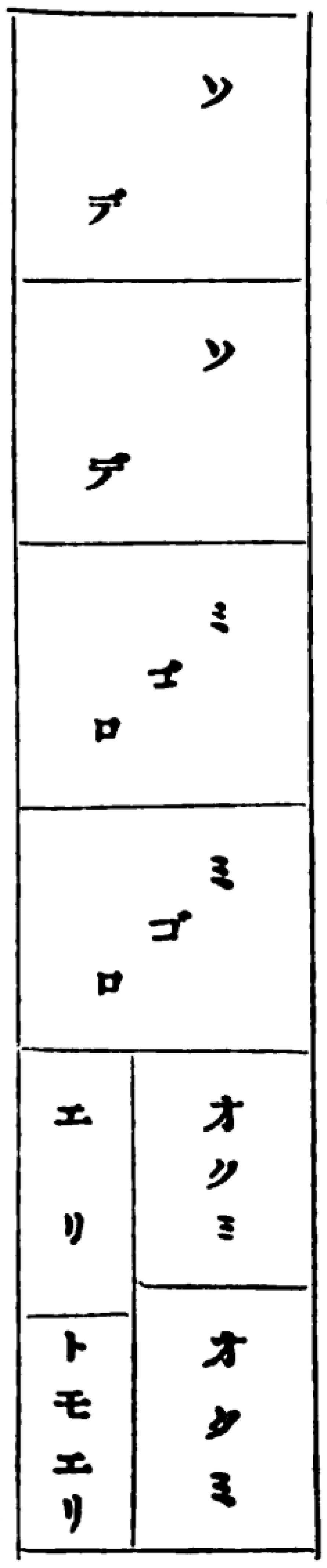
男女大人物裁縫法

はじめに布の丈尺を度り、裏表の糸抜きに氣をつけ、袖をたち、表の方を中へ入れ、二枚合はせて二つに折り、袖丈の寸法の方へ尺ではかり、四枚一度に篦でしるしをつけ、自分の前を袖付きとし、向ふを袖口とします。次に身頃をたつので、其法は前と同じく、表を中とし、四つに折り、丈をあたり、袖付きにしるしをし、自分の前側を脊とし衿肩を切り下げにし、二枚うらを前の身頃とし、衿肩の開いてある處から五寸どは下つて衽下のしるしをつけ、但し寸法より長くなッたら内揚げをするのです。腰あげは袖つきから一寸下り、前の方は又それより一寸下るのです。それ故、腰板のしるしをつけるには衿肩を後の方へ五分去つて袖つきから一寸下ッた處に四枚共にしるしをつけます。但し二寸長ければ又それよりも一寸下つた處にしるしを付けるのです。殘りの切れ地を衿衽とし、半ば程から衽になる方を二三分程廣く竪にたち、廣い寸法の方と衽とするのです。但し捧衿に寸法がなくて出來ぬ時には之を釣り裁ちとします。釣り裁ちとは、たとへば身の丈四尺なれば衽になる分として三尺七寸五分の處へ鋏を入れ、殘りを褄下とし、釣りに裁つた後衽を二枚あはせて褄下をわが方へ向け、衽巾を四寸とし

相褄を三寸五分とし、しるしをつけ、衽丈は三尺五寸の處へしるしを付けるのです。　が、裙下を眞直にして衽をつけるのに、上へ段々上る程布巾少しづゝ縫ひこむのです。　それ故その心もちでしるしを付けるのです。

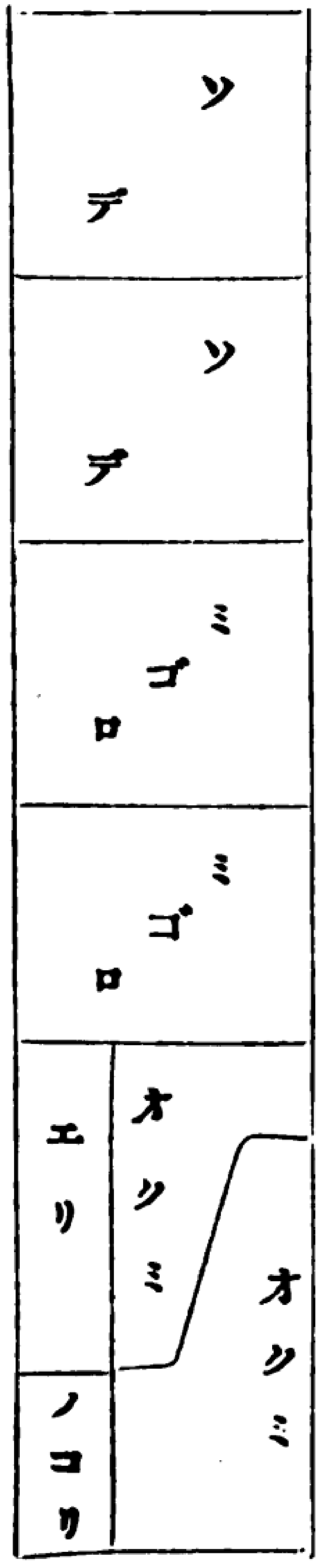
衿は背から裙下までの丈をはかり、山じるしをつけ、二つに折り、丈のしるしを付けるのです。　衽下は男女に限らず五六寸で宜しいです。

左に載せたのハ二丈七尺で男服を裁つ圖です。



右袖丈一尺三寸五分、衿肩二寸二分、丈三尺七寸五分、衿衽とも切れ地丈六尺六寸。

左に載せたのは二丈八尺で女服を裁つ圖です。



右袖丈一尺六寸、衿かた二寸五分、丈四尺、衿衽切れ地五尺六寸、衽丈三尺三寸五分、裙下二尺一寸。

衛生料理法（第九）

元鹿鳴館料理方　岩間芳松

上等料理の部　卅七號につゞき

三十一　日本風改良燒き鳥。　鶉、鴫、小鴨、鳩、雀、雲雀の類をひらき、庖丁で叩き、鐵網の上で燒くのが從來の法ですが、是では燒ける加減で不消化ともなり、滋養分を失ふ患へが有ります。　依ッて左に改良法を工夫しました。

前號の鷄料理のやうに小鳥の毛を去り、頭を去り、背から庖丁を入れてひらき、腸を取り、堅い骨を拔き、胡椒をふり庖丁の背でよく叩き、醬油につけ、玉子燒き鍋に牛酪又は脂肪を少し加へ、火にかけ、烟の立ッた處で鳥の醬油とよく絞り、身の方から燒き、又かへして皮を燒き、醬油を二三度つけ、粉山椒をふり、庖丁で適宜に切り、丼または皿に入れ、膳に出すのです。

衛生三食見立て　一名保健食料

岩間芳松

○第五日分

朝食　清し汁…葱すこし玉子一つ◎小皿…海苔油醬燒き◎飯（一合三夕）

晝食　皿…海老柔衣揚げ、あなご（大二つ）しん菊（中一本）◎椀…風呂吹き大根（鰹節味噌つき）◎飯（一合四夕）。

夕食。　皿…ハタ煎り鷄肉、馬鈴薯（二十匁）◎椀…魚のしんじやう、椎茸（十匁）三つ葉、口柚◎飯（一合三夕）。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝美術

文と語調との關係(其二)

美妙齊主人

既に文をば讀まずに吟ずる、さうなれば是非文に音調をたつとぶやうに爲るのは言ふ迄も無い事です。　何が故に文をば吟ずるのが宜いのでしやう。　主人には其必要の理由がわかりません。

もと〱文と詩との根原は全く其形に於て相違して居るからにれ従つて各々相違した聲を以て、讀むにしろ、吟ずるにしろ、會得するのが至當でしやう。　文に詩味を持つて居るのをば既に文學世界の原論に於て全く擯斥されて居るでは有りませんか。　既に文に詩味を持つのはわるい、乃ち文れ詩と全くれなれて書くべき物、と定めたならば語調崇拜家が文に詩味を持たせるのを辨護する事は出來なくなります。

しかしながら反對に文に於ては飽くまでも語調をわるくしろと言ふのでは有りません。　言葉尻を押へるものは爰にとつてかゝりましやう。　が、それは無法の論です。　主人が言ふのは語調をなめらかにしやうと勉めるなと云ふ方です。　眞わくまでも故さらに惡くしろといふのでは有りません。　反對と實反對との區別をばよく見とめるべきものです。

定論を餘處にして更に實際について之を言へば、今日の文學は一般に何れに傾きましたらう。　口に滑かな語句を拾ひ擧げる事は一般に巧みで、さて其外に於ては割り合ひに不手際です。　文に氣骨の有無は土臺多くてゝから出るもの、質が文に蹴押されるのも亦是から起ります。　今日に方り、今の文學世界の有りさまを見れば、多く粉飾が流行する、その病ひ、その根原を探れば、是も主人の管見ながら猶語調崇拜が行われて居るためでも有りましやうか。　四六の文は支那文學に救へぬ實を及ぼした前車の轍を踏まなければ爲らぬ今日でしやうか。　韻文の榮えるのは望ましいです。　韻文と粧ッた不韻文は輕薄粉飾の心を代表したものです。　飽くまでも、仇敵のやうに之を見倣しても宜しいです。

五社百詠卅七號つゞき

俊成卿

○三月盡

けふくれぬ夏の暦を巻かへし、なほ春ぞとや思ひなさまし
さりともなかくをしめども別行春も心に哀ならしや
年をへて春のをしさはまされども老は月日の早くも有哉
かへる春けふの舟出れみや井せよ猶住吉の松かけにして
行はるはしらすやいかにいくかへりけふの別ををしみきぬらん

○更衣

きふも又めつらしき哉百敷や雲のうへ人衣かへして
花の色は忘れすなから夏衣うすきにも又うつるころ哉
花の色をかふるならひのつらき哉昔は春やをしまさりけん
誰も猶花の色をは身にしめて人め計やせみのは衣
墨染の袖はよそなる花の色を人の爲にも猶をしむ哉

○卯花

卯の花のさける山路の夕つくよひとつを雪のそふるとろみる
中河や渡にさける卯花は垣ねつゝきに浪そこえける
夕つくよあやしくことにさやけきはうの花さける山ち成けり
卯花のかきねは雪のあらたにてよろの梢の夏の山さと
卯の花の浪のしかなみかけろへて名にも越たる玉河のさと

此をはりの歌は續古今集にも出てゐました

○葵

あふひ草日影になひく心あれば天津社もあはれかくらん
御あれひくけふの葵をみても先神に頼をかけそふるかな
あはれこそ草のなかにも諸かつら神のかさしとひかれ初ける
いかなれば日かけにむかふ葵草月の桂の枝をそふらん
よそなからけふのひよしのまつりにもかものみあれは葵成皃

○時鳥

またれてもたゝにも過す郭公ことかたしふろ哀なりける
夏ことに契るとならは郭公かくしも人になとまたるらん
時鳥さやかにちかく鳴こゑはにこれる世にはあれすも有哉
時鳥花橘に鳴時は聲さへ匂ふ心ちこそすれ
なくさむるかたなからまし夏のよを哀にもとふ時鳥哉

○菖蒲

奥山の谷のうきねのあやめ艸ひく人なしにねやなかるらん
瑞籬や五月のけふの御戸開きかさるあやめのかさへなつかし
れしなへてふかぬ宿なき黒白草いかで淀野よさのみひくらん
難波人あしまの菖蒲蘆の屋にやかてそへてやけふふくらん
回りくるつくまの浪の菖蒲艸ひけとつきせぬねにこそ有けれ

新年（十六句今様ぶり）　佐々木弘綱

たちつゞきたる門のまつ、
うちなびきたる日のみはた、
盡きせぬ千代のいろ見えて
としのはじめになりにけり。
ゆきげのくものあとたえて
たかねはいまだかすまねど、
ひれつゝあそぶあしたづの
聲こそそらにのどかなれ。

○第九回懸賞文藝得點の分

題　かるたあそび（和歌唱歌淨瑠璃詩及び文章に限る）

取捨標準　第一　意匠の新奇○第二　調べ及び修辭○此二件を備へた物を一等とする事。

○和歌

かるたとる遊びにつどふ人々は
夜もあけゆくを知らずやあるらむ………原田芳五郎（トロケイ）

とさな子のかるた遊びや學びてふ
庭のをしへの初めなるらむ………窪田こま子（トロケイ）

女子のかるた取る手に拍手そふ
かざしの鈴のしはらしきかな………同　上

右評　鈴が客になッたのが難です。

物學ぶをりもかるたにあそぶ日も
友てふものぞたのしかりける………永島よし子（ホアリ）

右評　友が主になッたのが難です。

たれこめし人のけはひのゆかしける、
たがかくれがのかるたあそびぞ………永島よし子

右評　意匠が何となく優美です。

かるたとる折り〳〵思ひいづるかな、
世になきともの好みたりしを………撫箏女史（ミノ）

うちとけてまとゐしつゝもをとめらが
猶あらそへるうたがるたかな………美見仲子（チカアマ）

右評　しらべは下ですが、意匠は新らしいです。

歌かるたがとりそめてなか〳〵に
いまはをとめのこゝろしるらむ………あしの（イヘシロ）

右評　前同斷。

以上第三等賞

うたがるたとるとはいへどなか〳〵に

こゝろとられてあろぶをとめ子……………あしの

右評　新らしい趣向です。

右準二等賞

ことのはの花をちらしてよむ聲も
いとにぎはしきうたかるたかな……………目時きぬ子（ナイヘ）

右評　圓滿な意匠の作です。

右二等賞

○唱歌

かるたあそびにつどへよ子供、
　　霞むみそらにたづ啼きわたれり。
としたちかへるのどけき今日と
　　ことぶき祝はむ、いざいざきたれ。
洽きめぐみいはゝむために
　　かちなばうたへ、君が代の曲を。

右……撫箏女史

ますらたけをの弓とりて
　　鹿おふよりもきそふらん。
かるた遊びのまさかりに
　　紅葉とびちるそのさまは。

右……花のや（キヘ）

右評　紅葉は處女の手の見立てゝしやうが、聞えが些し
　わるいです。

一

さしのぼる、旭とともに、ときはにぞ緑したゝる、松が枝に、きつゝまふなる、田鶴みれば、春の初も、のどかにて、庭に花さく、しら梅の、にほふ梢の、人來鳥、いつしかいゆき、春惜む、彌生となれば、花散に、百鳥たへに、音をしらぶ、その花陰に、かるたとりつゝ、遊ぶ樂しさ。

二

藤波の、花咲きみだる、池の面に、朧ろに影を、うつすなる、月に鳴きゆく、時鳥、かはらぬ聲と、しるべにて、たどるやつはし、あやめぐさ、ひく根ながきに、にかよへる、盛り久しき、ふかみ草、色香にとめる花なれば、とびかふ蝶も、羽をとむる、その花陰に、かるたとりつゝ、あろぶたのしさ。

三

しかな草、葉末にのこる、露にだも、たわむ古枝の、あるものを。ふみあらしつゝ、ゆく猪の、行末てらす、望の月、ながむ十寸穂の、はな薄、思ひれ雁の、鳴音のみ、風につたへて、菊の花、いと香をこめて、咲きければ、盃かはす、人もある、其花陰に、かるたとりつゝ、遊ぶ樂しさ。

四

○○紅葉々の、れりなす錦、愛しゝとも、思はで散す、無情の、紅葉鳥かも、神鳥は、さく桐をともに、たゝへられ、鶴とかれども、葉の散て、枯れし柳の、いと繁く、村雨ふれば、笠やどり、する身にさとる、事ありて、學びし人の、ろの道を、つとめしあとこ、かるたとりつゝ、遊ぶ樂しさ。

右……桂蓊小史

右　第三等賞

初日匂ふ年の初め、妹等をうちつどへて、火桶傍へに幾かるた遊びの樂しさ。「山鳥の尾のしだりをの」長い夜幾度かうづみ火の灰となる、それも忘れてまで飽かす爭そふ勝まけにはへだてない中だけに却ッてさも仇か敵かの樣に見えて。

技にはある優と劣。其かるた遊びに伴はぬのは各に持つ胸の温柔の春。此春、互ひの間にはいつも花もはゝゑみ、水も若やいでゐる心地して。

「昨夜は十二時鳴るまで……おほ……それも妹は知ッて居ながら今のは十一時だなど、申しましてねエ」

「此御作にもろの御摸樣が見えてゐますよ。」

「今朝はしりがきに……書きそめにしましたの……考へも何にもしませんのですから分りやしませんでしやう。」

「どういたしまして『花もはゝゑみ、水も若やいでゐる心地』……わたしは何時もあなたの御厚情に——母にも云ッて——喜んでゐますの、ほんとにかうですよ。新年尚相變りませず」……

「あらあんなことを。もう其紙此方へ返して頂戴。あゝかうしましやう、これから柳川さんを御呼び申してね、此間——暮に東京から歸ッた人に貰ッた奇麗な花がるたがあるんですよ——まだ妹に見せゝないの。それ取ッて一所に遊びましやう。あの歌がるたの方は昨夜一晩でもう遣へない樣にして仕舞ましたわ。さうしましやう、それからあとでかるた遊びの文を合作してね、先度の樣にいゝのを——それなんぞは文になッて居りやしません——かるた遊びと云ふのは今度のいらつめの課題ですよ」

風入れぬ奥の小坐敷、對話するは花の令孃、やがて揃ふ梅櫻牡丹、坐定まッてさて覆へす桐のかるた箱、翻へる錦のいろどり……

あゝ其手に成る文章も嘸や……いらつめに見はれたときは一しほの色と香とを紙面に添へることでしやう。右……三阪絹

○懸賞文藝新題

○第九回題（和歌唱歌詩浄瑠璃及び文章に限る）　十二月廿五日〆切
右　かるた遊び。

○第十回題（何でもよし）　一月十日〆切
右　美人雪夜に彳む。

○第十一回題（何でもよし）　一月二十日〆切
右　難破船の圖題。

○第十二回題（何でもよし）　二月十日〆切
台　處女の心情。

○第十三回（唱歌浄瑠璃及び文章に限る）　二月二十日〆切
台　桃花

文藝應募者心得

第一　右題を種にして成るべく趣向を立てるのを尚ぶ事○第二唱歌浄瑠璃及び文章は各一千五百字以内の事○第三一人で二種類の作を投せられた人は一種類各別々の紙に書く事○第四原稿には宿所姓名明記の事○第五原稿は半紙に限る事○第六第二第三第四及び第五に背くものは没書。賞品は一等賞清親良信二氏の内御好みの肉筆着色絹地書家の手に成つた書帖だけの大さの書一面○二等いらつめ十二部○三等三部。

雜纂

國民の友の新年附錄

音にとゞろいた國民の友の新年附錄、如何にも色々な物が揃ッて居ました。居ましたが、小說三種の中、是ぞと目を着けるべきは、嗚呼遂に鷗外漁史の手に中原の鹿は落ちました。思ふに鷗外漁史の舞姫に於ては第一時流に阿ッて奇句を以て威した處の無いのと第二形容敍事ともいづれか眞情に出でたこと。ことに洋行者流の陰弊を指されたのは尤も珍らしく覺えました。

枯華微笑、案外な作でした。情を寫された處はまづく難の無い方です。むかしの狂言にあるやうな落ちは近頃御身がらに些し不釣り合ひです。巧みな句は中々有ります。

破魔弓、をはりに至り、氣が絶えさうになッて悔悟したといふのは奇ですねて讀者をくらます謀と見えました。

さて終りの美妙齋氏の醉沈香、隨分妄執の深い愚痴をこぼされました。まづ何より角より愚痴の掃きだめと評した方が適當でしやう。

右あまり短すぎる評かも知れませんが、是でも記者は精々苦心して言ひ盡くすべき處を言ひ盡くしたつもりです。諸大人妄評御海容。

最も長い言葉

獨逸には最も長い言葉が一番多く有りますが、英國にも無くは有りません。べいりいの字書にも載ッて居る「おのりふヒかびりちユぢにて ヱちばす (Honorificabilitudinitatibus) が恐らく比類無い長い言葉でしやう。しかし是は言葉をよせ集めた物ですから拔くとして、ゑぶすたァにある「ぢすぷろぼるしョねヱぶるねす」は正銘の一己の長い物でしやう。併し、曾てたいむす新聞には「ないとろふヱにれねぢあみん (Nitrophenylenediamine) といふ語を赤色の顏料の名として載せた事も有り、またすたァ新紙には「ぱりふらすちこんちのみめがろんぢゆれヱしよん (Polyphrasticontinomimegalondulation)」といふ語を出した事が有りました。けれど猶すさまじいのは化學にある語で、即ちそれは Methylbenzomethoxyethyltetrahydrapyridinecarboxylateです。

日本古代の命の名には一息で言ひ切れぬのも澤山ありますが是は句でなくて語です。

西洋狀袋の起原

泰西ではじめて郵便の制度を工夫したのは人も知るとほりのろうらんど　ひるで、その以前までは狀袋も最も少かったです。　郵便制度の出來たのは一千八百四十年（今から五十年前）一月十日で、狀袋が一般に用ゐ初められた日は同じ年の五月六日でした。　日本でも起原沿革はこれと大同小異です。　即ち、維新前には多く近い處は狀箱で手紙をおくりましたから、今日ほど盛んに狀袋を用ゐませんでした。　が、勿論遠方へやる手紙には、起原は知れませんが、兎に角狀袋をば用ゐたのです。

てにずん詩老の近作

羨ましくも今日世界第一の詩老との美名を專有して居るのは言あたらしく言ふまでも無い英國のてにずん翁です。　翁れ四五年前男爵に叙せられた程の勢ひで、財産もあり、地位も有り、圓滿具足して居ますが、近頃に至ッては其作の氣骨が前日より大きに衰へたなどゝの評が有ります。　批評家の多數、ことに新聞記者で批評を書く人の多數は近頃ますく／＼冷淡に詩老の作を取り扱ふやうになりました。　要するに是には多少原因の有る事、思ふに貴族にてにそんがなッたために庶民との軋轢から斯うも爲ッた事でしやう。　われ／＼はにう、りびユう雜誌で買ひ取ッたこの詩老の新作（すろッする）と題するものを見ました。　が、例の句調の流麗、意匠の秀美は猶、われ／＼の僻目か、前日に讓りません。（めいくゐイん）はてにずん翁の少壯の作、しかし其美麗といふ點に於ては、唯氣象に老少の區別があるだけ、決して相劣りはしません。　即ち其詩れ左の通り、便宜のため解釋を間にさし入れました。

Summer is coming, summer is coming,
夏來ぬ、夏來ぬ、夏來ぬ、
I know it, I know it, I know it,
われ そを 知る、そを 知る、そを 知る、
Light again, leaf again, life again, love again,
今一度ひかり、今一度若葉、今一度命、今一度愛、
Yes my little wild poet.
然なり、この 幼き、世馴れぬ 詩人、

Sing the new year in under the blue.
青ぞらの下に新年をうたへ。
Last year you sang it as gladly,
去年　喜びて　汝は　うたひき、
"New, new, new!" Is it then so new,
「新、新、新、新」　さまで新？
Jhat you should carol so madly?
さまで　狂ひ　うたふ　まで　新？
Love again, song again, nest again, young again,
今一度愛、今一度歌、今一度巣、今一度若さ、
Never a prophet so crazy;
占者も　左迄　飽くは　わらざりき。
And hardly a daisy as yet, little friend,—
さて　雛菊も　なは　いまだ、見よや　友、
See, there is hardly a daisy.
雛ぎくの　かげ　だにも　なし。
"Here again, here, here, happy year,"
「こゝに　又、こゝに、こゝに、樂しき年」
Oh, warble, unchidden, unbidden,
れい　をオぶる、責められず、待たれず、
Summer is coming, is coming, my dear,
夏ハ　來ぬ、來ぬ、親しき　ものよ、
And all the winters are hidden.
ふゆは　あと　たえて　かくれぬ。

國の花

日本の國の花は菊です。　是とおなじく諸國にも有ります勿論日本の國の花は舊くから用ゐられた物ですが、泰西諸國のは近頃の出來で、そして大に流行の色が有ります。　米國ふとらでるふとあのまアがれッと、ぴいはアベい孃も此事につき頻りに奬勵して、日本の菊　英國の薔薇、ふらんすの菖蒲など、均しく、國の花を定めたいと主唱して居ました何も流行とは言ひながら隨分世は好事なものです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雨の豫察

近着のぼすとん雜誌に雨をうらなふ左の奇事が出て居ました。――

「夕暮れに太陽の方に雲が薔薇色になッて集るのは雨の前兆です。

夕ぐれに　鼠いろ、あしたの　くれなゐ、
帽子　かぶれ、　左　無くば　かしら　ぬれむ。

「晝降り出した雨は午前八時に終ります。日中に降り出したのは午後までつゞきます。

七時　前に　雨　ふれば
十一時　後に　晴れ　と　なる。

「日の出前に降る雨は午後晴れるしるしです。　日が輝いてそして雨が降れば、次の日もまた降るものです。　急に南に出た雲は雨のしるしです。　西から降る雨はながく續かぬもの、東風で降る雨は終日つゞきます。　小さな雲が諸方へ散り、次第に集まッて厚くなるのは雨のしるしです。　小さな黒雲は雨の豫言です。　日の出頃西にあらはれる黒雲は其日雨の來るしるしです。

夕ぐれの　くれなゐ、　あしたの　鼠、
かならず　雨と　送る　なり

「地に影が見える程低いところにある雲は雨の前兆です。雲が開いたり、閉ぢたりするのは雨のつゞくしるしです。空に二ながれの雲が走るのは雨の近々にあるしるし、雲の高低がいろ〳〵で、それで各々反對の方へ動くのは大雨の前表です。

鯖肌のそらあらば
廿四時間内にかならず降る。

「雲がひろく空を掩ひ、その下に小さな黒雲が動くのは霖雨のしるしです。　草の上に燕が低く飛び、きり〳〵すが鋭く啼くのも雨の前兆です。　水鳥が常よりはげしく啼き叫びそして水の中へ飛びこむのはたしかに雨の來るしるしです」。

無言の物がたり

この間の（がアるす　おうん　ぺヱぱア）雜誌に懸賞小説と婦人間に募ッてあッて、その題は即ち無言の物かたりといふ題です。　奇な題だけに面白い工夫も付きさうです。　やがて應募して第一等賞を得た分をバ受け取り次第反譯していらつめへ出します

婚禮後

第一

わたしの此物がたりは短いです。が、仕入れ物の吹き流し例の鋏と糊とで繼ぎ合はせた長談義より讀んで利益もある方です。第一男主人公と雌主人公の婚禮で話しが終るので無く、婚禮から話しが始まるのです。かう言ふのも異逆にすねた事でも有りますまい。と言ふ譯は、御覽なさい、やれ新○やれ○作と言ッて出る、其趣向はみな千篇一律、白痴が八幡知らずへ入ッたやうに曖昧に書き綴ッていく度か、人をはぐらかし、そしてとゞのつまりへ行けば、何が無し、婚禮のめでたし〱。それだけが今の小說家さまの御腕前です。　言が、婚禮は果たして全く愛でたし〱で終る物ですか。　酌みかはした三々はゞ愛でたし〱は婚禮の門だけです。九度の杯のしづくもまだ乾かぬ間、浪風は早くざわだつ事もある事。言ひかへれば婚禮は愛でたし〱の入り口で、而も同時に愁嘆や困厄の玄關でしやう。　一方に眼をよせて愛でたし〱で男女の大倫、人生の初歩を看やぶる哲學者がこれ程までに多い事でしやうか。　あゝ獸情！

この小說の主人公夫婦の愛情は――時流の眞似です！――

學校での幼馴染の時にあッたのです。　麹町の何某先生が隱居株の廢物利用主義、征途の浪風にあたられぬ老体とば直に機轉で夫子と化けさせたところ、白粉が厚かつたためか見る間に屑籠を束修と月謝との包紙でうづめる始末、その時に入學したのはこの小說の主人公杉江貞一郎と雌主人公の大幸民子でした。　民子は何某といふ蘭學出身、それに明治獨逸の鍍金をかけた七殿の三番むすめで、まづ青しよぼれた顏色、梅毒質かと言はれさうな体。しかし其愛嬌といふものは中々中々。　すこしつまッた顏で、皮厚らしい樣子。が、それだけに、玻璃なら艶消しとも言ふ方か、何にしろ、親が見て美とし、麗とするだけの愛情をば貞一郎も起しました。　のは貞一が十三、民子が十歳の時。君も名はTが頭字だねといふのが思ひ込む發端の言ひ草で、それで何か前世の因緣でも有るやうに考へたのも亦妙でした。

民子には二つちがひ、即ち十二歳の姉が有る、その姉は隨分――色も白く――民子よりは一般に美人とみとめられる方であッた、それを何故貞一が狃はなかッたかは不思議です。が、小說家が緣は異なものと言ッて逃げるところは此處、何が何だか、民子に寄する貞一の愛情は久しく變はりませんで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

した。四年間、二人ともかはらず親しんで居ました。が貞一は元々大學へ入る志願。やがてさう爲りさうに爲ッて家の不如意から俄に方向をかへて會社の手代となりました。なりましたが、會社は家から遠くも無い事とて、休暇ごとにれ家へ歸ッて兩親にも逢ひました。が、ことさらに醫者の許をば音信れました。まるで天使の降臨のやうでした——音信れるわづかの間、しかもいつも〳〵久しぶりの處でちよつぴり、殆ど譯も無い間に意中の人とかたり合ひました。でその愛情の濃さは餘處目にもうらやましい程、親たちも雙方終に納得して、やがて二人を夫婦にしやうとの相談も出來ました。が、まだ二人とも小供、ことに貞一にも家を張る丈分の資産も無いところ、その出來た上でとの約束は終に貞一に無上のはげみを與へました。

寄書

我文學界の爲め惜む

おろか小僧投

活と眼を開いてズ——ト當今の文學界を見渡せば千紫萬紅芳と戰はし艶を競ひ宛から春の錦を織り出だせる趣があります德富宗——志賀宗——一ト度び世と風靡せしより以來斬新奇警の議論文が續々現はれて本邦文學の爲め喜ぶべく祝すべき現象を呈しました殊に小說界には言文一致——雅俗折衷——時メキテ近頃は又た西鶴——其碩——の亞流を汲む文體が流行し來り各々文壇の一方に陣を張り旗幟をおし立て丶競爭戰爭の最中……ても勇ましい有樣！サテも盛んな事！如何にも愉絕快絕只感嘆の外はわりませんが併し遺憾殘念に堪へぬは此文運日新の流行に連れてかの稗史戯曲の元祖とも謂つべき近松派——馬琴派——の文品語調か次第に衰退廢絕して來るものは我小說界の爲め惜みても尙ほ餘りある事です勿論文章——殊に小說の文章抔は巧に人の腦裡に立入りて其感情を動かすを肝心とする事は今更云はずともの事そして感情には種々ありて喜怒哀樂其場合に依り時に隨ひ轉々變化の感發を悉起す者であれば能く之に投合したる文字口調を作らねばならぬ事は之も分切りた話ですかるが故に一概に一派一流の文體に固結るのは惡いこびり付くのは好くない一ッは痩我慢と云ふ分子も加はるのでしやうが今の文學界には此の固結くが多い兎角こびり付きたがる癖がある体裁好く云へば一家の見識とやら云ふのでしやうが之が抑も宜しくない斯く申すおろかゝ見を以てすれば當時流行の西鶴肌其碩肌の文体は輕快輕妙洒落滑稽的の趣に懸けては至極適當ですが悲哀的眞面目的の態を寫し出すには馬琴近松の流派に限ります元來大和民族の感情は優美である清廉である純潔である‖敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山櫻かな‖と云ふ古歌即ち之を表彰して居ります此優美なる清廉なる純潔なる感情を誘起し發達させるのには矢張り馬琴近松の宗派の文体が持てこいです要するに私の希望する所は近松馬琴の其陳腐な趣向結構は無論打捨て其文法語調を取りて之を我文學界に保存し益々之が發達を促致したいと云ふ點にあるのです近來該派の漸く衰退滅絕に歸するを見て慨嘆の余り斯くはものしつ世の文學家諸先生以て如何と思召す

無限日曜表

月／年	四月 七月	九月 十二月	六月	二月 三月 十一月	八月	五月	十月 一月
い	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日
ろ	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日
は	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 卅日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日
に	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 卅日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日
ほ	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 卅日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日
へ	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日
と	二日 九日 十六日 廿三日 卅日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 廿日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

一、八、十五、廿二、廿九等七デ割リテ一殘ル諸數	二、九、十六、廿三、卅等七デ割リテ二殘ル諸數	三、十、十七、廿四、卅一等七デ割リテ三殘ル諸數	四、十一、十八、廿五、卅二等七デ割リテ四殘ル諸數	五、十二、十九、廿六、卅三等七デ割リテ五殘ル諸數	六、十三、廿、廿七、卅四等七デ割リテ六殘ル諸數	七、十四、廿一、廿八、卅五等七デ割リテ殘ナキ諸數
と	は	へ	ろ	ほ	い	に
い	に	と	は	へ	ろ	ほ
ろ	ほ	い	に	と	は	へ
は	へ	ろ	ほ	い	に	と
に	と	は	へ	ろ	ほ	い
ほ	い	に	と	は	へ	ろ
へ	ろ	ほ	い	に	と	は

一	七		十八	廿四	廿九	卅五		四十六	五十二	五十七	六十三		七十四	八十	八十五	九十一	
二	八	十三	十九		卅	卅六	四十一	四十七		五十八	六十四	六十九	七十五		八十六	九十二	九十七
三		十四	二十	廿五	卅一		四十二	四十八	五十三	五十九		七十	七十六	八十一	八十七		九十八
四	九	十五		廿六	卅二	卅七	四十三		五十四	六十	六十五	七十一		八十二	八十八	九十三	九十九
	十	十六	廿一	廿七		卅八	四十四	四十九	五十五		六十六	七十二	七十七	八十三		九十四	百
五	十一		廿二	廿八	卅三	卅九		五十	五十六	六十一	六十七		七十八	八十四	八十九	九十五	
六	十二	十七	廿三		卅四	四十	四十五	五十一		六十二	六十八	七十三	七十九		九十	九十六	

此表ヲ用井ルニハ次ノ三ケ條ヲ知ラ子ハナリマセン

(1) 右ノ上ニアルハ日曜表其下ニアルハ年數表左ノ上ニアルハ世紀表其下ニアルハ符號表ト定メル事

(2) 年數表ノ中ノ空所ハ其一ツ前ノ年ガ閏年デアル事ヲ知ラセル爲メナル事

(3) 紀元元年ヨリ百年マデヲ一世紀トシ全百一年ヨリ二百年マデヲ二世紀トスル事以下此理デ推ス可キ事

今年ノ一月ノ日曜ヲ見ル時ハ世紀表ノ廿六ノ下デ年數表ノ五十（今年ハ二千五百五十年ナル故デスモシ二千五百年ナレバ廿五世紀デ年數ハ百トナリマス）ノ横ニ當ルはヲ符號表ヨリ見出シ日曜表ノ中ノはノ横デソシテ一月ト書テアル下ヲ見レハ五日、十二日、十九日、廿六日、是ガ求ムル所ノ日曜トナルノデス

又タ三十八万五千四百九十四年六月ノ日曜ヲ見ル時ハ世紀表ニ三千八百五十五ハアリマセン然シ七行ノ内何レニカ屬スルモノデス因テ七デ割リテ見ルニ五殘ル故第五行目ニ屬スル事ガ解カリマシタ此ノ行ノ下デ年數表ノ九十四ノ横ニ當ルろヲ符號表ヨリ見出シ日曜表ノ中ノろノ横デ六月ノ下ヲ見レバ二日、九日、十六日、廿三日、卅日、是ガ求ムル所ノ日曜日デス

閏年ノ（今求ムル年ガ閏年デアルカナキカハ(2)デ知レマス）三月以後ノ日曜日ヲ見ル時ハ其年數ノ換リニ次ノ空所ヲ用井ルノデス其外ハ前ト換リマセン

東京本郷區弓町二丁目三番地寄留
大川晴雄著

正	明治	九年	十五年		廿六年	卅二年	卅七年
齋		十年	十六年	廿一年	廿七年		卅八年
伊		十一年		廿二年	廿八年	卅三年	三十九年
藤	六年	十二年	十七年	廿三年		卅四年	四十年
卯	七年		十八年	廿四年	廿九年	卅五年	
平	八年	十三年	十九年		三十年	三十六年	以後逐年
編		十四年	二十年	廿五年	卅一年		記入

○此表ヲ操ルニハ正齋伊藤卯平編ノ七母字ヲ目標トシ內一字ハ其年中何レノ月ト雖トモ變更セサルベシ假令ハ明治二十三年一月中ノ日曜及其他ノ六曜日ヲ知ラント欲セハ先ツ上ノ欄ニ(二十三年)トアルヲ見夫ヨリ同列ヲ左ヘ見レハ(藤)ノ字在リ故ニ此藤字ハ二十三年中用ヒテ代ルヿナシ次ニ下欄一月ノ行ニ在ル(藤)ヲ見直チニ同列ヲ右ヘ眼ヲ轉スレハ即チ一月中ノ日曜日ハ五日十二日十九日廿六日月曜日ハ六日十三日二十日廿七日タルヲ知ルカ如シ餘ハ皆之レニ傚フベシ

○閏年ハ一二ノ兩月ニ限リ閏字ヲ冠セシム平年ト謬リ數フルヿ勿レ

伊藤卯平識

十月 一月	五月	閏二月 八月	十一月 三月 二月	六月	十二月 九月	七月 四月 閏一月	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
正	編	平	卯	藤	伊	齋	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日
編	平	卯	藤	伊	齋	正	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
平	卯	藤	伊	齋	正	編	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日
卯	藤	伊	齋	正	編	平	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日
藤	伊	齋	正	編	平	卯	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日
伊	齋	正	編	平	卯	藤	六日 十三日 二十日 廿七日	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日
齋	正	編	平	卯	藤	伊	七日 十四日 廿一日 廿八日	一日 八日 十五日 廿二日 廿九日	二日 九日 十六日 廿三日 三十日	三日 十日 十七日 廿四日 卅一日	四日 十一日 十八日 廿五日	五日 十二日 十九日 廿六日	六日 十三日 二十日 廿七日

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信問答

心得第一　通信問答は態手數の事○第二　御問ひ合せの事が答へを載せた雜誌の八號前にあればそれには委しく答へず只其處在を言ひます○第三　特に普通に有益と認めた問ひには廣く答案を募ります○第四　御問ひ合せ文字並に文章ハ明亮に認くべき事

林七十代さまへ　それよは神田裏神保町の三省堂で賣りまする國民英學會雜誌を讀むのが適當です

豐田才一郎さまへ　元來己れ願貧であつて人の己れを稱贊するは願貧なるために媚ぶるのであつて、又誹謗するのは願貧なるを猜むからです、故に斯の如き場合には兩ツながら冷淡に見過して差支ありません（二）洋燈のホヤハ白色のが無色のより宜しいです（三）現今東京府下で販賣する最も無害にして且つ奇麗艶美になさしむる歯磨粉は京橋區出雲町の資生堂脳原で賣り出すのです

飛の女さまへ　仰せの如く神經的病には寶健丸は無害です用ゐて害はありません

I.S.さまへ　鼻の形を挽め直すには鼻軟骨を引き拔いたり或ハ挾み板をあてゝ直すへしさは皆てある西洋新聞に出ておたのですがこれは口に言ふべくして實行されぬことでして郵便報知新聞さかに記載してありといふことは少しも知りません（二）砒石白色法ハ現今取調中ですいづれ其中に記載します

渡邊ておか子さへ　食パン製造法はいらつめ第廿八號に出ております（二）食パンを燒く器はブリキ屋へ注文すれば出來ます（三）西洋料理案内抔は種々ありますが完全した者はありません（四）西洋料理用器具等ハ成美社へ御注文になれば紹介して差上ます（五）衛生の爲めには米よりも麥の方が宜しいです（六）衛生を重んづれば一日に四度食するより三度の方が宜しいです

疑問　完全な日本の姓名字引の名。（二）吾國の歴史上に顯はれてゐる人名の讀み方を調へる確實な書物の名。（三）一國内外で買へる日本地圖の完全なるもの。…吉原。第卅七號疑問（一）最上の水彩畫手本の名。（二）同じく鉛筆畫手本の名。…吉益春枝（三）遠州納豆製法…無數育娘。皆答抔初三題ハ本月廿二日限り後三題は十八日限りメ切應答の方へハいらつめ一部進呈の事

餘興　賞品はポマドンヌール一壷

新題

（一）頼山陽、野々口隆正、加賀の千代、右三人が有名なものを作り、今に人々がはめて居ますが、その物の形はどんなでしやう。…………村上つる（ビンゴ）

（二）たつや否や落ちる。落ちると人が安心するものは何でしやう…………同　上

（三）武器二つで成り立つ日本の中の國の名は何です…………とし子（キイ）

（四）蟬丸が虫をにがして弓をもち。武具名一つ…同　上

（五）上から讀んでも下から讀んでも同じな小さな動物の名は何です…………豐田しげ（トトウリ）

（六）人にあふ時には互に別れて居て、後には乾度逢つて、たゝ嬉し？たゝいや？互に抱き付きます…………同　上

第卅四號餘興の答へ

（一）正午に立てた竿の影又ハ鹿角又ハ寒暖計の水銀（二）さくら（三）ナとアを結ぶ（四）淀君（五）たこ（蛸）ふな（鮒）いな（鯔）（六）カヘナ（七）なる程恐ろしい

皆答者も六題以上解答者もありませんでした。

皆答者にはポマドンヌール一壷、六題解答者にはいらつめ一部いづれも進呈○解答紙は第三十九號に附録として入れます○其號の解答紙に認めてない答へは沒書○御投寄の新謎を出せば其號一部進呈。本號新題解答御送付は來一月廿二日限

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

注意　いらつめ第廿四號に處方を出したハンドコロン、及び第廿八號に製法を載せたポマドンヌール共近頃麁惡な劑料を以て僞造品を賣る者が有ります。翁屋へ托して弊社で發賣させる上は一々劑料を吟味しますが、麁惡な劑料で名を冒して發賣されるに於ては其効驗の無いのは勿論の事、啻に弊社の迷惑のみか又御求めの各位の御損です。東京では直接に翁屋から御求めになる便も有りますが、地方ではそれも叶はず、蔭ながら御迷惑御察し申します。因ッて今度から手數ながら弊社で地方の各位に右兩化粧品賣買の御紹介を致します。御用の御方は弊社又は翁屋へ向けて直接に御申込下さい。其場合ひに於ては弊社で包の紙に保證の捺印をして差し立てます。御申し込は定價を添へるに限ります（郵券代用御斷）。定價ハンドコロン一瓶七十五錢、ポマドンヌール廿五錢、遞送料其他御注文の心得はいらつめ第廿九號の廣告にあります

成美社發送掛

いらつめ **合本**

明治廿二年十、十一月分○紙數自二十六頁○價郵税共十七錢五厘○廿八號ゟ卅三號迄揃ひ○明治廿二年十二月分○紙數八十四頁○價郵税共十二錢○いづれも府内は無郵税

右十二月分合本は一月十二日から發賣（郵券代用は五厘切手で一割ましに限る。

いらつめ**廢本非常廉價賣捌**の處瞬く間に**品切**となりましたゆゑ**更に普通本を**廢本と同様の**廉價**で賣ります但**非**常の廉價ゆゑ**割引を為ません**

一冊三錢郵税各五厘●十二號廿四號皆無●前金領收の上發送

成美社

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
米國新製絨氈羅氈塵去り器械
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

堅牢無比、便利一等、切地を損せずに秋毫の垢埃をも去る器械○貴紳の住宅に最も必要の品○一個四圓五十錢

專賣　神田區通鍋町十番地　**高木商店**

樂器着荷廣告

弊店儀かつて歐米へ注文致し置き候ふヴァイオリン、オルガン、ピアノ並びに音樂書籍など各種着荷いたし候ふ間御一覧の上御購求被下度伏して是祈る

○イタリー製ヴァイオリン箱入り

右イタリー品は從來あまりこれなし獨逸製とは品位一等の差に非す今弊店に於て之と專賣す

九圓、十二圓、十六圓、廿五圓、卅圓、四十圓其他

○和製ヴァイオリン

右は弊店製造品にて和製中唯一との評あり

四圓、四圓五十錢　六圓　七圓其他

○靜岡縣濱松樂音舍製オルガン

右は近頃諸機械を設置し凡て歐米製と殊なる無き品と製するに至れり

十八圓、二十四圓、卅三圓、三十七圓、四十五圓、六十圓　五十二圓、七十圓、九十圓、百二十圓其他

○舶來ピアノ

百五十圓より五百圓まで各種

○舶來オルガン

三十八圓より二百五十圓まで各種

○舶來ヴァイオリン附屬品、糸、ヤン、調子笛各種

○樂譜用紙

○オルガン譜用、ピアノ譜用、ヴァイオリン譜用椅子

●諸樂器類深切に御直し申し候

調子の義は**外人**に致させ申すべく候

破損の節は御報知次第參上委しく申し上ぐべく候

神田區通鍋町十番地　**高木樂器商店**

皆さま
おめでとふ

さつそくながら

○ポマドンヌール　うつく／＼きつぼ入代二十五銭

これわおしろい下、あれ症には至極妙、それわ／＼はだをなめらかにつや／＼し／＼ひび霜やけは知らぬくなる現に常に此のポマドンヌールをお用ひの令嬢はひび霜やけとはたへるのですゝ見るものですゝと仰せでした。

○ハンドコロン　うつくしきびん入代七十五銭

これは男女共色の白くなる香料私し店は古くゝらハンドコロンを發て居りますそれでたいそふお得意さまができました。

取次は左之處へありますゝら御最寄澤山御求め下さい。

下谷で池ノ端守田と、車坂のさくらか○京橋で出雲町鶴屋、南佐柄木町上田○神田で小川町笠井資生堂、一ッ橋つちや○市ケ谷田町本莊や○大坂南久太郎町一丁目あさひや。

神田南神保町四番地
化粧品専賣店
おきなや敬白

恭賀新年併祈淑女諸君之萬福

東京市本郷區弓町
二丁目三番地寄留
大川晴雄

拜謝

いらつめ愛讀諸孃及び其他諸君子各位から多數に年賀狀をいたゞき、忝く存じます。一々御こたへと致すべきの處　猶それも叶はず、略儀ながらこの雜誌に一枚づゝ御挨拶の繪を入れて御厚意を謝します猶御年賀を下さッてそれで御宿所の不分明な向きの方々へも宜しく申し上げます

明治二十三年
一月十日　山田美妙

● 學術隨筆 博聞雜誌 第五十三號目錄 ●

●論説○日本刑法沿革ノ略説　粟原如水○化學沿革史ノ誤チ辨ズ　井上斧作●寄書○度量衡ノ新本位●歷史○後醍醐天皇ノ名和長年ニ賜ハリタル勅書○明主ヨリ秀吉ニ送リシ書狀○吉田追風ノ由來●傳記○今上天皇○皇后宮○皇太子○世界各國帝王ノ聖壽●天文○陰曆閏月ノ相違○地球廻轉軸ノ變遷○信州ノ雪●地理○下野國白根山ノ噴火○大隅國霧島山ノ噴火○世界第一ノ高山○アイスランド東部中心ノ探索●人事○年賀○人生幸福ノ要素○世界ノ子福者○多子多孫ノ人○天子ト皇后トノ訴訟●農業○日本ノ農業○雪ト農事トノ關係○稻株切機械●工業○英佛兩國橋○新發明ノ信號砲○世界未曾有ノ大砲○鞏固ナル城壁ノ築造○鐵道掃雪機●商法○日本ト支那トノ貿易上ノ一大障害○日本ト威尼斯港トノ貿易○輸入鐵類數量價額○亞非利加ノ奴隸賣買●諸業○東西洋ノ音樂○球突キノ極秘○水雷艇ノ航海●理化○石巠油ノ發火力ニ關スル空氣ノ作用氷河内部ノ溫度○油ヲ以テ怒濤ヲ退クル實驗○電氣ト光線トノ關係○既ニ使用セル寫眞板ヲ新ニスル便法●衛生○餅ノ消化試驗○抱質ノ餅○馬鈴薯ノ餅○牛房葉ノ餅○狐憑病ノ説（續）●教育○支那ノ北京大學○米國ノ新聞學校○倫敦ノ貴婦人看護學校●文籍○源氏物語ニ付キタル一説○三百年前ノ農書○奇異ノ女新聞○一千圓ノ行燈ノ書○世界ノ新聞雜誌●雜事○德用ナル飯ノ炊キ方○諸物速力ノ比較○七十二日間ニ世界一週○英國ノ有名ナル決鬪●廣告　數十件

●毎月五日廿日兩回○一冊八錢○半年分十二冊金九十錢○八ケ月分十八冊金一圓卅錢○一年分廿四冊金一圓七十錢○爲替ハ芝口局○郵券代用ハ一錢券ニテ一割增

● 發行所　東京京橋區弓町十番地　博聞雜誌社 ●